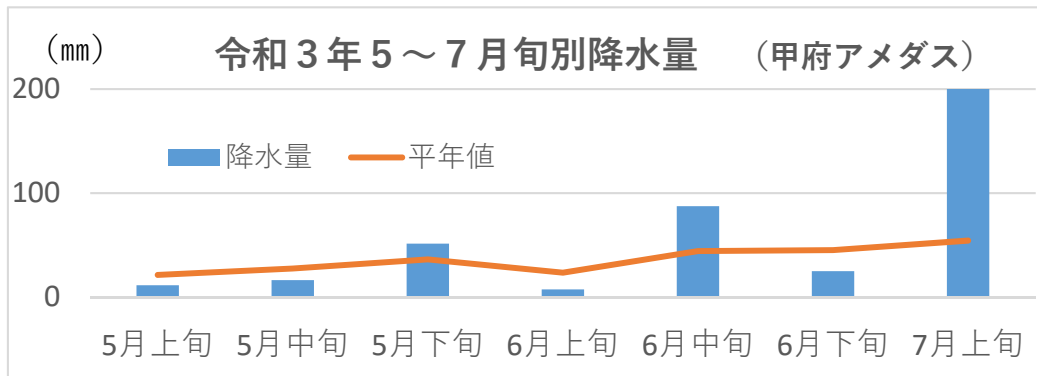


ブドウの晩腐病について

令和3年7月20日
農業技術課

1. 状況



- ・降水量は、早場の一次感染期にあたるGA処理前後の5月下旬で平年比：141%、仕上げ摘粒前後の6月中旬で197%を観測した。また、7月上旬は384%であった。
- ・晩腐病は、昨年4倍体品種を中心に発生が多く、ほ場における病原菌の越冬密度は高いと考えられ、カサ・袋かけが遅れた園では、感染が心配される。
- ・早場では収穫期を迎え、ほ場の一部で発病が見え始めており、今後発生が多くなると予想される。

2. 対策

- ・発病果房（発病果粒）から健全部に二次感染し、被害が拡大するので、ほ場をよく見回り早期発見に努め、見つけ次第摘粒しほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・袋を掛けてある園では、発病した果粒が袋内で感染を拡大させるので、発病が見られる場合は改めて見直しの摘粒を行う（その際は、新しい袋に掛け替える）。
- ・中間～遅場地域でも今後の発病に注意し、ほ場を定期的に見回り早期発見と摘粒など被害拡大防止に努める。

着色始めの発病果房



収穫期の発病果房

